●●の目

物事を見たり、分析する時の視点を例えで使われる言葉に**「虫の目　鳥の目　魚の目」**があります。
最近では、それに加え**「コウモリの目」**という視点があると言われています。

★簡単に説明すると…★

虫の目	物事の**詳細**を分析する視点・局所的に注視すること。 小さな虫になって細部をきっちりと把握すること。 ミクロの視点。
鳥の目	物事を**全体から捉える**視点・俯瞰的に全体を観ること 「木を見て森を見ず」という言い方があるように、鳥になって 森を俯瞰してみる。マクロな視点。
魚の目	物事を時の経過という**流れ**で見る視点・取り巻く空気に着目すること 時代の流れを読む魚になって流れを読むこと。全体の傾向やトレンド、 どの方向に何が流れつつあるのかの視点。
コウモリの目	物事を**反対や逆さま**から見る視点・正反対に見ること。 物事をさかさまの観点でみること。 先入観なしに眺めてみること。

何か問題が起こった時に、一つの視点で見てしまいがちですが、その時に今の自分にはどこの視点が足りていないのかな？と思い返すことも大事です。
そうすることによって、視野が広がり問題解決の糸口に気づくことにも繋がります。
人は、固定概念をなかなか外すことが出来ません。しかし、こんな方法があると思うだけで意識出来ると思います。
この言葉はビジネスでよく使われるようですが、育児においてもすごく大切な視点になると思います。
目の前にいる子どもを**「虫の目」**で見てしまいがちですが、**「鳥の目」**や**「魚の目」「コウモリの目」**でみることで子どもの可能性も広がってくるかもしれません。

さてここで、目の前にいる**「子どもの目」**についても考えてみましょう。

子どもにはどんな風に見えているか

子どもは、大人のやることをやってみたいと思って真似をしたがります。
そのやり方（大人の動き）を子どもに教えようとすると、それは８倍速に見えるそうです。
そう考えると、伝えたいことは『ゆっくりと丁寧に見せる』ことを意識しないと伝わりませんね。
また、子どもは大人が真似してほしくないことこそ上手に真似をします。
自分の立ち振る舞いが、子どもにとってどんな姿に見えているのか？考える必要があります。

子どもにとって自分はどんな存在？

子どもにとって当たり前の存在である親をどう捉えているかは、普段の生活や関わりの中で自然と決まっていきますよね。
『我が家の子どもから、自分を見たとしたら…』と考えると、自分の立ち振る舞いもちょっと見直さねば、と思うことがあります。
とは言え完璧にすることに一生懸命になり過ぎる必要はないかな、とも思います。
【子どもと共に成長できる関係性・一緒に物事を乗り越えられる存在】であるといいですね。
子どもは、親（大人）をよく見ています。毎日、楽しそうに（前向きに）しているだけで、子どもも「ああなりたい」と思うようになるので、いいお手本でいましょう！　　（橋本 美香）